



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# ベンチャー電子工業株式会社

5

「東京メトロポリタン経営大学院に入学する前は、外資系の石油会社に勤めていました。そのまま勤めていても、一生暮らしに困ることはなかったと思います。けれども、会社の内外の環境に魅力をなくし、メトロポリタン・ビジネス・スクールに入学しました。28才の時です。家には妻と1才になる子供がいました。入学当初は、卒業して就職し、ビジネス・スクールで学んだ知識を生かして、再びサラリーマンとして仕事をしていくつもりだったのですが、次第に自分で直接会社の経営に携わるような仕事をしたいと思うようになりました。2年生になってからは、色々と自分なりにビジネスのネタを拾い始めたんです。いくつか話はあったのですが、何れも資金的にかなりリスクだったので実現できませんでした。そのようなことで、自分で会社を始めることは当面の間あきらめることにしたのですが、やはり普通のサラリーマンに戻る気にはなりませんでした。そう考えていくと、私の希望するような仕事を与えてくれる企業というのは、外資系の投資銀行かベンチャー企業ということになります。そうしているうちに、ベンチャー電子工業株式会社を知ることになったのです。」(加藤武彦とのインタビューより)

10

15

20

「マイクロ・コンピューター分析測定器のトップメーカーであるベンチャー電子工業株式会社は、先端技術のあくなき追及を理念として、中村俊男社長の強い個性に牽引されている。中村社長が、マイクロ・コンピューターによる分析・測定という未開拓の分野を選択したそもその理由は、大企業に対抗して我々のような小企業が生き抜いて行くためには、新しい技術によって既存技術の陳腐化を促進させ、それによって差別化を図り、技術開発集団、頭脳集団としての技術全般にわたるインパクトの強化・確立を図ることが必要だったからに外ならない。つまり、専門分野の技術をより専門

25

ケースの中の固有名称は、すべて偽装されている。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/> 慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright©高木晴夫